

地域高規格道路 都城志布志道路の整備について

～整備状況と開通により期待される効果～

宮崎県 県土整備部 道路建設課

1. はじめに

令和3年3月28日（日）に、地域高規格道路 都城志布志道路「金御岳 IC～末吉 IC」の開通式を地域の代表の方々や関係者あわせて約100名の方々に御出席いただき開催しました。開通区間は、宮崎県と鹿児島県の県境区間であり、両県が都城志布志道路で結ばれました。

本稿では、都城志布志道路の整備状況と開通により期待される効果について、御紹介いたします。



写真-1 テープカットの様子



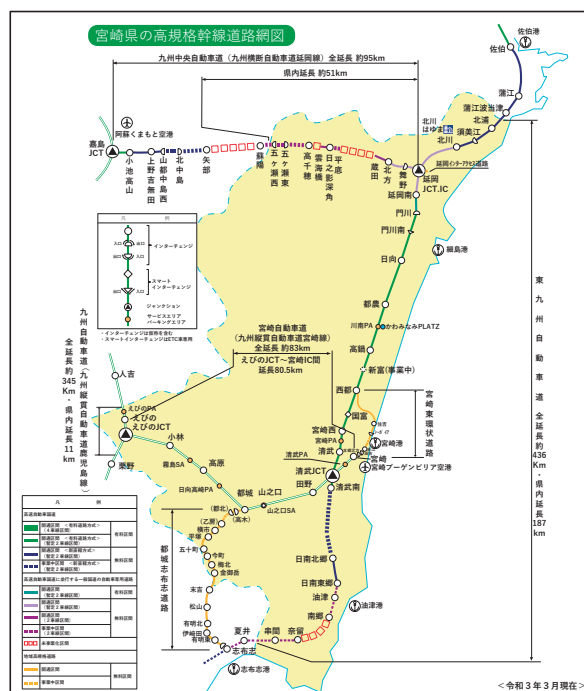
写真-2 通り初め式の様子

2. 路線の概要

都城志布志道路は、宮崎県都城市を起点に鹿児島県曾於市を經由して鹿児島県志布志市に至る延長約44kmの自動車専用道路であり、国や鹿児島県とともに整備を行っています。

本道路は、宮崎自動車道「都城 IC」及び東九州自動車道「志布志 IC（仮）」と接続して広域ネットワークを形成するとともに、国際バルク戦略港湾である「志布志港」と直結することで、物流の効率化や救急医療活動の支援、防災対策機能が強化されます。

また、本道路の整備により、都城 IC から志布志港間が70分から40分に大幅に短縮されます。



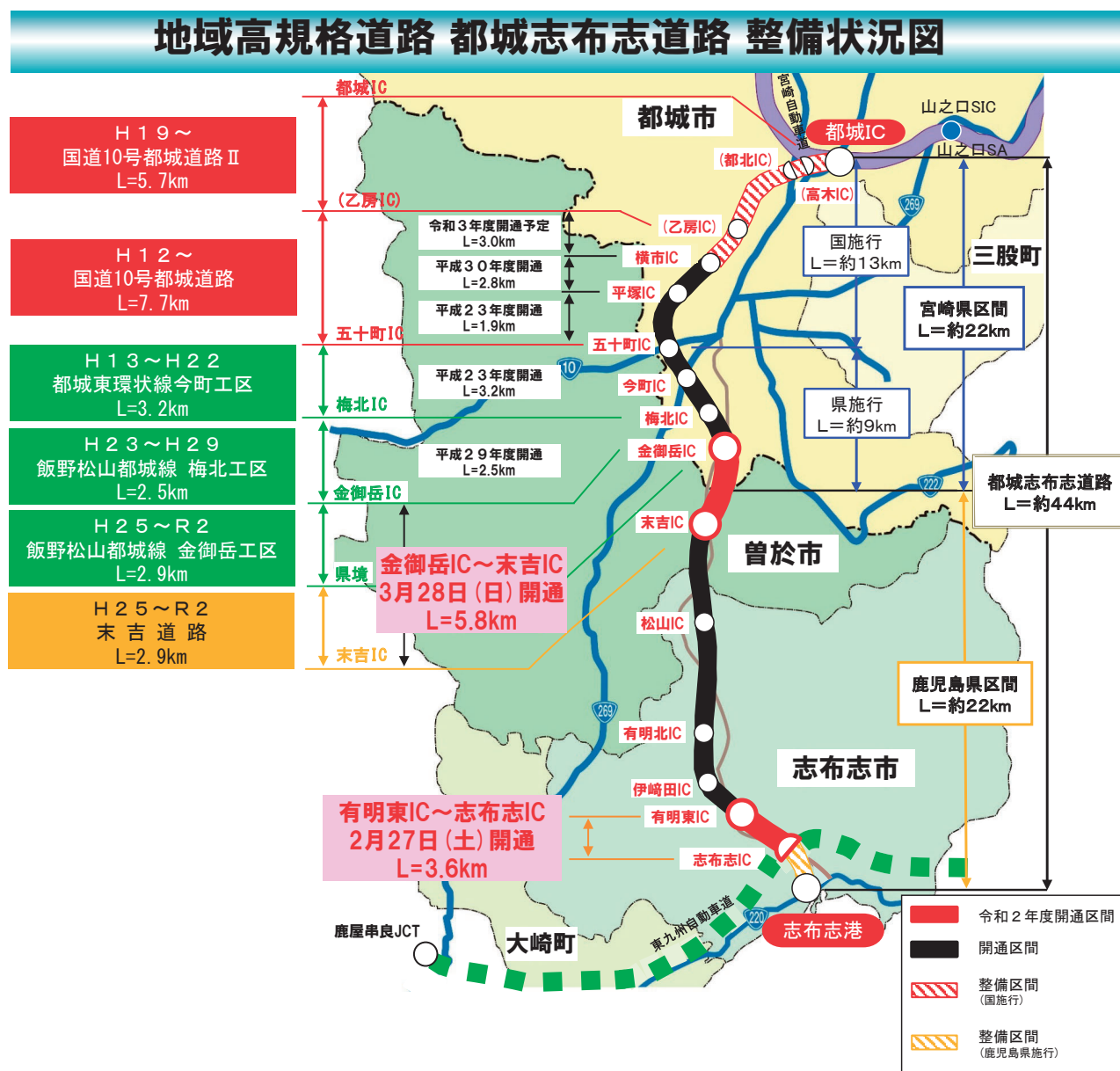
3. 整備状況

都城志布志道路は、全体延長約44kmのうち、宮崎県区間・鹿児島県区間ともに約22kmあり、宮崎県区間のうち「都城IC～五十町IC」の約13kmを国土交通省、「五十町IC～県境」の約9kmを宮崎県が整備を進めています。

これまで、平成17年2月に鹿児島県区間の「末吉IC～松山IC」が都城志布志道路として初めて開通し、以降、昨年度までに23kmが開通しています。

今年度は、令和3年2月27日に鹿児島県区間の「有明東IC～志布志IC」、令和3年3月28日には、宮崎・鹿児島両県を跨ぐ「金御岳IC～末吉IC」がそれぞれ開通しました。この開通により、「横市IC～志布志IC」までの約32kmが連続して利用できるようになり、供用率は約73%となりました。

また、来年度には、国土交通省において整備を進めている「乙房IC～横市IC」の開通が予定されており、供用率も約80%となるなど、全線開通に向けて着実に整備が進んでいます。

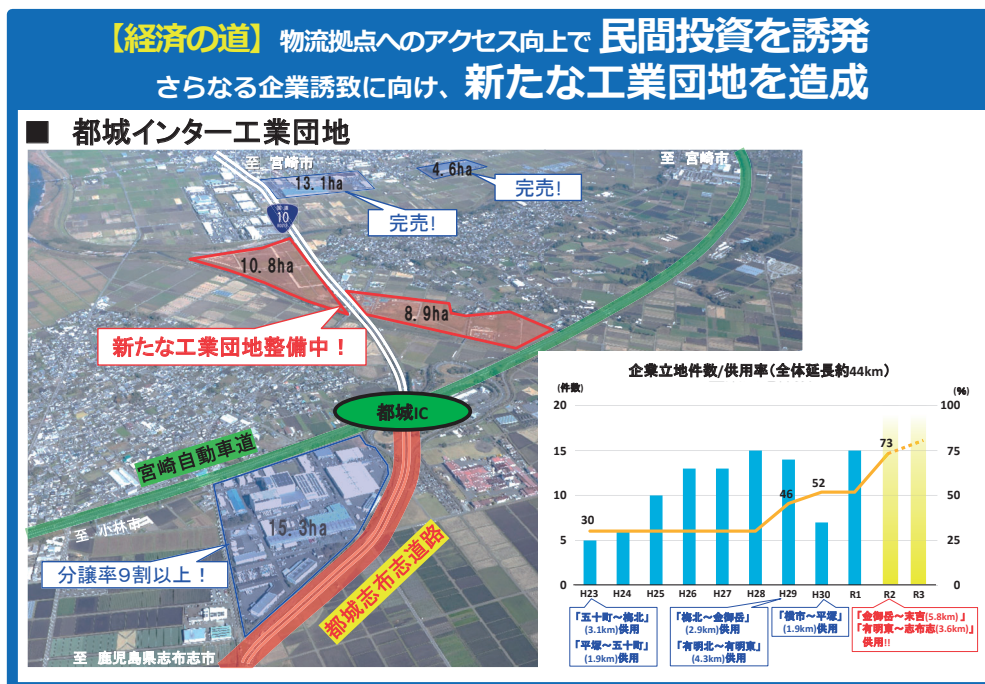


4. 期待される効果

(1) 経済の道

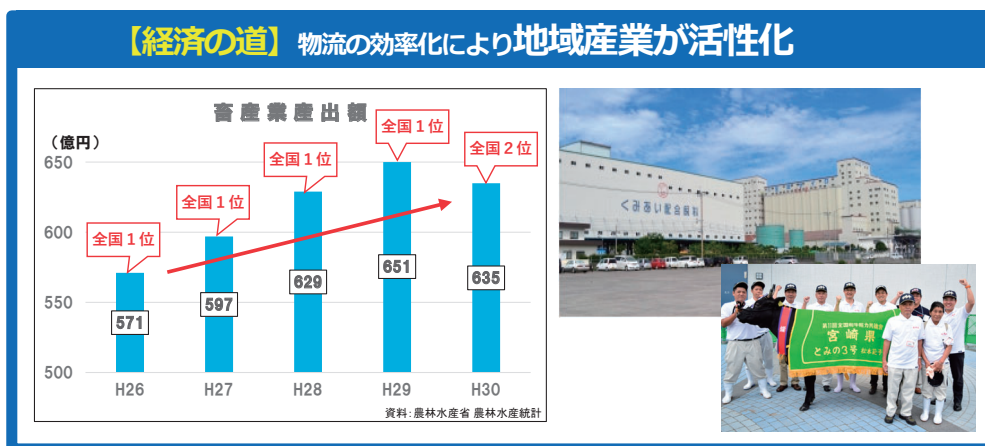
1) 物流の効率化

都城市では、都城志布志道路の整備が進んでいることや全線開通を見据えて新たな企業の進出が活発化しています。令和元年度には、これまで分譲中であった工業団地への企業立地が進み、分譲可能な箇所が少なくなったことから、令和4年度の造成完了を目指し、新たな工業団地の整備に着手しています。今後も、企業誘致による新たな雇用創出が期待されます。



2) 地域産業の活性化

本県は、農畜産業が非常に盛んです。なかでも都城市は、畜産業が盛んな地域で平成30年の畜産業算出額は約635億円と全国2位となっています。畜産業に不可欠な配合飼料は、志布志港周辺の工場で加工され、都城志布志道路を活用して輸送しています。都城志布志道路の整備が進み、輸送時間の短縮されることで、安定的な飼料搬送が可能となり、畜産業のさらなる活性化が期待されます。



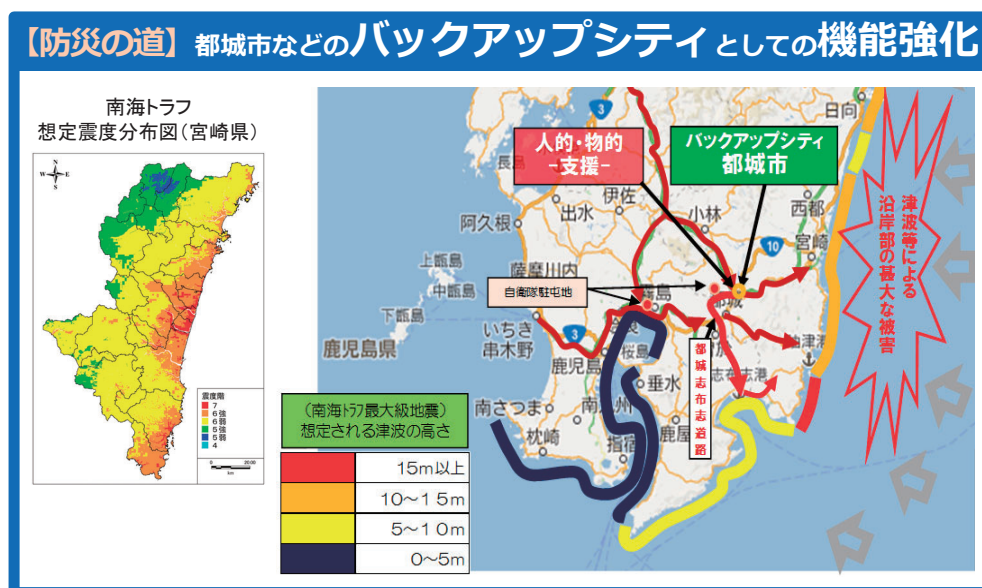
(2) 医療の道

都城志布志道路の沿線自治体は、都城市を中心市とした、「都城広域定住自立圏（関係市町：宮崎県三股町、鹿児島県曾於市、志布志市）」が形成されています。圏域の自治体は、中心市である都城市にある医療機関の受診割合が高いなど、強い結びつきがあります。都城市では、重傷救急患者の医療を行う第二次救急医療施設である都城市郡医師会病院が都城志布志道路の沿線に平成 27 年に移転されました。本道路の整備により、搬送時間の短縮や搬送時における揺れや振動が抑えられることで、患者の負担軽減が期待されます。



(3) 防災の道

本県は、南海トラフ地震が発生した場合、宮崎市をはじめとした沿岸部では大きな揺れや津波が発生し、甚大な被害が想定されています。都城市は、内陸部に位置する都市として、発災時における被災地での医療救護活動やその後の復旧活動を行うための「後方支援拠点」を有しています。津波災害等が発生した場合は、沿岸部に位置する志布志市と都城市が結ばれることにより、被災地へアクセスする道路として機能することが期待されます。



5. おわりに

都城志布志道路は、宮崎自動車道などと一体となり、広域交通ネットワークを形成するとともに、産業や観光の振興、救急医療、防災などの様々な観点から、本県にとって非常に重要な道路であり、全線が供用することでより効果が発揮されます。

本県事業区間は、関係者の皆さまの御支援と御協力により、全区間が無事に供用することができましたが、引き続き、全線開通に向けて、国、鹿児島県、沿線自治体とともに取り組んでまいります。